

算数科 学習指導案（例）

日	時	令和 年 月 日（ ）
		10：00～10：45（第2校時）
学部・学年・学級		小学部2年〇組（〇名）
場 所		小学部2年〇組教室
指 導 者	〇〇〇〇（T1）	〇〇〇〇（T2）

1 単元（題材）名「ひとつずつ、くばろう」

2 単元設定の理由

（1）児童の実態（児童観）

本学習グループは、2年生の男子〇名、女子〇名で構成されている。経験したことを自分の言葉で話すことができる児童がいる一方、発語のない児童もあり、コミュニケーション面での実態は様々である。算数科では主に特別支援学校学習指導要領小学部1段階の内容を学習しており、これまで形や色に着目して弁別したり仲間分けをしたりする学習を行ってきた。学習の中で児童は、見本と同じ具体物の仲間集めをしたり、関係のある一対のものを組み合わせたりするなど、物と物とを対応させる活動に取り組むことができた。一方、日常生活の中で具体物を配る様子を見ると、教師と一緒にあれば一つずつ配ることができるが、一人で配ろうとすると、置いていない場所があったり、一箇所に二つ置いたりする児童も見られ、一対一対応を確実に身に付けていくことは課題となっている。

（2）単元について（単元観）

日常生活の中で、給食の配膳やプリント配りなど一対一対応させて物を配る機会は多く、児童にとって身近であり、身に付けた力を生活の中で生かすことができる学習内容である。また、一対一対応ができることは、ものの個数を比べ、同等・多少が分かることや数を正確に数える力につながり、順序数や集合数を理解する素地となるものでもある。本単元では、具体物や半具体物の一つずつ配る操作的な活動を通して、確実に5までの範囲で一対一対応ができるようになることを目指していきたい。

（3）指導に当たって（指導観）

指導に当たっては、「はらぺこくまさん」という教材を作成し、食器や食べ物の一つずつ配る経験を通して一対一対応について理解を促していきたい。その際、食べ物を配ると、困った顔のくまさんが笑顔になるなどの工夫をして、児童の興味関心を高めるようにしたい。また、配る具体物がぴったり入る大きさの枠を用意したり、置く場所が視覚的に分かりやすくなるよう目印をつけたりするなど児童の実態に応じて確実に一対一対応ができるような工夫を心掛けたい。配る物も具体物で配ることに慣れてきたら、より抽象的な絵カードなどに替えて理解を深めるようにしていく。さらに、輪投げや玉入れなどゲーム的活動の中で実際に一対一対応させて一人に一つずつ配る場面を設定し、手元に具体物がなくなったことで配りきったことを確かめることなどを通して成就感や達成感を感じられるようにしたい。なお、本単元では、数を数えることを目的とはしていないが、生活経験の中で数唱が身に付いている児童については、数唱と対応させて配ることも無理のない範囲で取り入れていきたい。

3 単元の指導目標

- (1) 5までの数の具体物や半具体物を、基準となる物に合わせて一つずつ対応させることができる。(知識・技能)
- (2) 一対一対応させて配れたことを確認したり、一対一対応できていない箇所があることに気付いたりすることができる。(思考・判断・表現)
- (3) 具体物の操作やゲーム的活動を通して一対一対応させることに興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元の評価規準

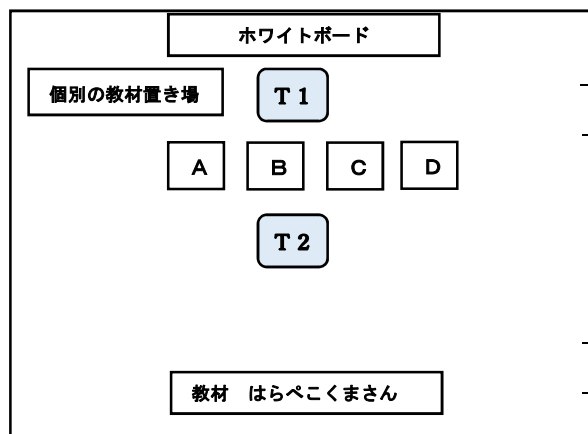
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体物や半具体物を、基準物と対応させながら一つずつ置いている。	一対一対応できていることを指さしで確認したり、配っていない箇所があることに気付き、言葉や身振りで表現したりしている。	一対一対応させることに興味をもって学習に取り組んでいる。

5 単元の指導計画と評価計画

	主な学習活動	時間	重点を置く評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
1	くばってみよう (本時2 / 2)	2	○		○
2	ゲームの中でみんなにくばろう	1		○	○

6 本時の指導

- (1) 題材名「くばってみよう」
- (2) 本時の目標
 - ① 5までの具体物や絵カードを一つずつ対応させて置くことができる。(知識・技能)
 - ② 一つずつ配ることを理解し、興味をもって活動に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- (3) 児童の実態と本時の個別目標及び評価規準 (別紙1)
- (4) 展開 (別紙2)
- (5) 教室配置図



別紙1 児童の実態と本時の個別目標及び評価の観点

性 学年	児童の実態		本時の個別目標	評価の観点	評価
	障害の状況等	本時に関すること			
A 女 2 年	・知的障害 ・教師の簡単な質問に答えて、経験したことを話すことができる。 ・5までの数唱ができる。確実にではないが、10までの数唱をしようとする事ができる。	・5までの具体物や絵カードを確実に一対一対応させることができる。 ・配膳の際、牛乳やストローを配っていない箇所があることに気づき、「ないよ」と教師に伝えることができる。	① 10までの絵カードを一対一対応させることができる。 ② 一つずつ配ることができたかどうか確認しながら、関心をもって活動に参加することができる。	① 基準となる物に合わせて、絵カードを一枚ずつ置くことができたか。 ② 一つずつ配ることができたかどうかを「ぴったりだね」「あのくまさん、ないよ」など自分の言葉で教師に伝えながら取り組んでいたか。	
B 男 2 年	・知的障害、ダウン症 ・はっきりとした発語はないが、声を出して教師や友達を呼んだり、身振りサインで意思表示をしたりすることができる。 ・教師の数唱に合わせて発声し、数唱しようとする事ができる。	・置く場所が明確であれば、一列に並んでいる物に5までの具体物を一対一対応させることができつつある。 ・教師が配っていない箇所を具体的に指さしで示すと、配っていないことに気付いて配り直すことができる。	① 目印を頼りに5までの具体物を一対一対応させて配ることができる。 ② 一つずつ配ることができたかどうか、活動の結果に関心をもつことができる。	① 目印を見ながら、一箇所に一つずつ具体物を置こうとしていたか。 ② 教師と一緒に指さしや数唱に合わせた発声等で確認し、配ることができたことを喜ぶ様子が見られたか。	
C 男 2 年	・知的障害、自閉症 ・単語や二語文程度の簡単な言葉で意思表示をすることができる。 ・集合数や順序数を表していることの理解は難しいが、5までの数唱をすることができる。	・一列に並んだ物に5までの具体物を一対一対応させることができる。間隔が空いていたり、不規則に並んでいたりすると、迷うことがある。 ・配っていない箇所があることを指摘されると、自分で探して、足りない箇所に配り直すことができる。	① 不規則な並び方であっても、5までの具体物を確実に一対一対応させることができる。 ② 一つずつ配ることができたかどうか、関心をもって確認することができる。	① 間隔が空いていたり並びが変わったりしても、基準となる物に着目して具体物を一つずつ置こうとしていたか。 ② 配っていない箇所が無いか、自ら一つずつ指さしながら確認することができたか。	
D 男 2 年	・知的障害 ・発語はなく、欲しい物や行きたい場所がある時は、教師の手を取ったり、服を引っ張ったりして意思表示をする。 ・色や形に着目して、具体物の見本合わせをすることができる。	・三つ程度の少ない具体物であれば、教師の指さしを頼りに一対一対応させることができる。 ・教師の支援を受けながら、配膳のときに牛乳を配ることができる。	① 基準物に合わせて、三つの具体物を一対一対応させることができる。 ② 物を配ることが分かり、自分から具体物を置こうとすることができる。	① 配る具体物がぴったり入る枠があることにより、自分から一つずつ具体物を置こうとすることができたか。 ② くまさんに配る具体物を自分から手に取りトレイに置こうとする様子が見られたか。	

* 評価 ◎：達成した ○：やや達成した △：未達成

	学習内容	児童の動き、★個別の指導上の留意点				指導上の留意点	準備物
		A	B	C	D		
導入 5分	1. あいさつ 2. 本時の学習内容の確認	・ あいさつをする。 ・ 前時の学習の振り返りをする。 ・ 本時のめあてを知る。 めあて ひとつずつ くぼろう				・ 前時までの学習で用いた教材を見せて、一対一対応の学習をしたことを確認する。(T 1) ・ 本時のめあてと個別の目標を確認する。(T 1) ・ 必要に応じて児童に注目を促す。(T 2)	・ 教材「はらぺこくまさん」
展開 30分	3. 一対一対応させてみよう (個別学習)	・10 までの絵カードの一対一対応をする。(T 1) ★対応させる物同士の関係性が分かりやすい絵カードを用いる。 ★一列に並んだ基準物に対応させることができたなら、不規則な並び方でもできるようにする。	・ 5 までの具体物の一対一対応をする。(T 1) ★対応させる物を置く場所が明確になるように、目印をつける。 ★操作しやすい大きさの具体物を用いる。	・ 5 までの具体物の一対一対応をする。(T 2) ★一列に並んだ基準物に対応させることから始め、徐々に並び方の配置を変えたり、間隔を広げたりした課題に取り組むようにする。	・ 3 個の具体物の一対一対応をする。(T 2) ★対応させる具体物がぴったり入る大きさの箱で、確実に一対一対応できるようにする。徐々に皿などの上にも置くことができるようにしていく。	・ 個別の学習課題を準備する。 ・ 児童A、児童Bの指導を行う。(T 1) ・ 児童C、児童Dの指導を行う。(T 2)	・ 個別の学習課題
	4. はらぺこくまさんに配ろう (全体)	・ 教師と一緒に個別の課題を片付ける。 ・ 教室後方へ椅子を持って移動する。 ・ 説明を聞き、5 匹のはらぺこくまさんに、おやつと食器を配ることを知る。 ・ 一人ずつ前へ出て、食器や食べ物模型を一対一対応させながら配る。				・ 個別の課題を片付ける。 ・ 移動場所へ児童を誘導する。(T 1) ・ 教材を並べる。(T 2) ・ 活動の説明をする。(T 1) ・ 児童に配る物を渡す。児童の様子を見守り、戸惑っている時には、適宜支援する。(T 1) ・ 児童が配り終えたら、「みんなに配れたかな」と言って、確認するように促す。一人で確認することが難しい場合には、指さしながら一匹に一つずつ配れたことを児童と一緒に確認する。(T 1)	・ 教材「はらぺこくまさん」 ・ トレイ ・ スプーン ・ おしぼり ・ プリンの模型(各5) ・ 目印
		・ 教師と一緒に数唱しながらトレイを5枚数え、くまさんに配る。	・ くまさんにスプーンを配る。	・ くまさんにおしぼりを配る。	・ 教師と一緒にくまさんにプリンを配る。	・ おやつと食器がそろっていることを一匹ずつ指さしながら確認し、くまさんの顔を笑顔に変えていく。5 匹のくまさんが全て笑顔になった喜びを児童と共有し、達成感をもつことができるようにする。(T 1) ・ 見ている児童が関心をもつことができるように、適宜言葉掛けをする。(T 2)	
		★リズムよく数えられるようAのタイミングに合わせてトレイを手渡す。	★置く場所が分かりやすいように目印(スプーンの絵)を置く。	★置く場所に迷うようであれば、指さしで置く場所を示す。	★置く場所が分かりやすいよう、目印(プリンの絵)を置き、指さしで注目を促す。		
		・ 5 匹のくまさんにおやつと食器がそろっていることを、教師の指さしと困った顔のくまさんが笑顔になることで確認する。					
まとめ 10分	5. 本時の振り返り 6. あいさつ	・ 学習内容を振り返る。 ・ 本時のめあてを確認し、できたこと、頑張ったことを教師と一緒に振り返る。 ・ 次時の学習内容について聞く。 ・ あいさつをする。				・ 使用した教材を見せながら、本時の学習についての話をする。(T 1) ・ 何ができたか、どんなことを頑張ったかを児童が自分の言葉等で表現できるように、必要に応じて言葉を補ったり代弁したりする。(T 1)	